

## 第4回尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会専門部会 会議録

日 時 : 令和5年6月27日(火) 15:00~17:00

### ■議事

#### ○計画目標の訂正案について

- 委員 資料1Bのリニューアル公園数について、リノベーションに取り組んだ公園の数となっている。利用者の快適性や利便性を向上させる公園整備や、社会実験等に取り組んだ公園の数ということで、ハード整備が完了したようなところだけではなくて、ローカルルール相当のことだけでもいい。仕組みを含めて変わったなら、リニューアル公園数にカウントするということがよいか。
- 事務局 資料1 数値目標の全体目標の指標について、市民アンケート調査で「現在在住地域の暮らしやすさについてどう思われますか」という質問の中で4つの項目について聞いている。
- ①日ごろ利用する公園のつかいやすさ
  - ②美しい建築物や道路などの景観がある
  - ③緑豊かで憩いくつろげる場所がある
  - ④河川、水路などの水に親しめる場所がある
- この4つの項目について、「満足」、「やや満足」と回答した人の平均をとっていくと、直近の令和4年度が44.5%となっている。過去の推移をみたところ、平成30年が29%令和元年に34%と、少しずつ右肩に上がっている。それを参考に、5年後52%、10年後60%と目標値を設定している。
- あと、アンケート調査の項目として、まちの暮らしやすさという非常に似たアンケートをとっていたので、それを今回使うか考えている。公園、景観、緑豊か、水辺という4つの指標が、今回の計画内容の全体目標としてあっているのかどうか、もう少し考えた方がいいのではないかと思っている。
- 委員 メインのKPIとその下に、それを構成する指標を公式に設定すると少し大変なことになる。例えば、全体目標について、この44%の参考指標はこの4つですというものがある。Aの指標の公園利用の向上というのも、これは何を意味しているのか、説明できるものがあれば置いておく。例えば、Hの指標で行動している市民の割合というのが、結構広範囲に設定されている。その中に、指導者として行動しているというのが、参考指標として理解把握できるのであれば、それを置いてもいいのではないか。公式に新しい何かが増えたり、進行管理にかかってしまったりするとなかなか厳しい。その指標に引っ張られることは避けたい。
- 事務局 モニタリング指標という形でレベルを下げたものを設定し、その中でモニタリングしていく。

- 委員 公園、景観、緑豊か、水辺環境、この4つで説明されることについてこれでよい  
か。
- 委員 当初目標を書くのであれば中身を変えてしまうと数字が嘘になってしまうので、  
本来は変えない方がいいと思われる。ただ一方で景観の項目が緑なのかが疑問  
に思う。
- 事務局 建築物、道路のみどりだけではないと思われる。一方で街路樹とか、建築物の周  
りの敷地の中の緑化を含めた、景観という要素の解釈である。
- 委員 「緑と調和のとれた美しい建築物や」と入っていればわかるが、これだけだと建  
築単体のデザインや道路の凸凹ではないなどのことではないのか。
- 事務局 今回暮らしやすさに着目した。今、既存のアンケートの中ではどれかという  
この4つであった。現在はこの内容では聞けていないので、現行の数字がなんだ  
という、緑のあることの暮らしやすさについてこの項目で取っていたが、実際、  
結構悩んでいる。本当は来年に取れたらそれを使っている。それを10年間追っ  
ていくのが筋だろう。今の段階で、暮らしやすさに満足している市民の割合がい  
くらであらうと聞かれると、この4つ位になる。
- 委員 今まではこの4つの平均値が緑の満足度であると提示はしていなかったのか。  
事務局 していない。
- 委員 では、今ここから景観を取ることもできるのか。
- 事務局 今回初めて緑の満足度というところで、既存のアンケートから4つという切り  
方をしたので、10年前からみどりの満足度を4つで提示していたことではない。  
景観の中に緑の要素も多いだろうというので、入れたという経緯もある。
- 委員 資料3のP6、0~3までであるが「全く緑に興味、関心がない」から「緑のある環  
境を好む」。みどりに興味があるではなくて、自分たちが普段やっていることを  
緑のある所でやると気持ちいいよね、くらいから入っている。緑が好きじゃなく  
てもいいというところから始めようという話をずっとしてきているので、それ  
くらい広い幅をもってするのであれば、道路とか緑が含まれているのだろうと  
景観の中でちゃんと興味を持っていただければ、お気に入りの場所とか、許容範  
囲であらうと思う。指標として数値でつかまえていくのであれば、シビアになる  
だろう。
- 委員 景観が極端に低いですね。
- 委員 景観を抜くと何%になるのか。景観は高いほうなのか。
- 事務局 景観は28%くらいである。景観を抜くと50%弱くらいまで上がる。
- 委員 大きな都市なので、全く緑がないというところもあるから、こういうことになる  
のかもしれない。ないところもあり、許容できる感じではない景観が多い。緑が  
含まれると上がるのだろうが。
- 事務局 我々はもともと建物の建築景観も大事にしているので、それを一体どう思って

いるのだろうと思いこの項目がある。緑の景観という聞き方をしていない、景観というざっくりとした聞き方をしていることが悩みである。

尼崎市では都市美審議会では、緑の景観についての委員が「伝統的に」これまで入っていなかった。屋外広告物に着目したり、建物そのもののをしたりしていた。建築のデザイン、色等、それも緑の要素が多いだろうということで委員も多様性を含めて現在入っていただいている。

委員 そのようなところで、苦戦しているところがあれば、緑でクリアできる向上できる、ここにいくような指標それを説明できるような感じがしないでもない。今ある指標を使うとすれば、この4つか3つかだろう。

委員 都市美委員の経験は浅いが、あまり緑の議論はされていないように感じる。4つをみると、緑豊かと景観の違いがわからない。いま議論したいのは緑豊かなのではないか。景観の文書を読むとこれはなくてもいいのではないかと印象を受ける。

委員 いわゆる、プレースとランドスケープの違いの気もする。

委員 緑を想像して回答している人はいないのではないかと思う文である気がする。緑の指標にするのはどうかと思う。

委員 次回から「緑の」と言葉をつけてアンケートを聞き直すことで、今までの結果と比べられるかどうか。そこまで許容できるかどうか。

委員 比べることを優先するのであれば、今でも景観を取れば数字は出る。

委員 50%くらい上がるだろう。5年、10年が60%、70%、10%ずつ上にずれていくと思う。

事務局 景観は都市美の昔でいう建物系、道路系であり、道路をみると街路樹があり、風景のようなイメージをしてもらえるようにきいているが、確かに文面をみると分りにくい。

委員 公園景観、緑豊かというのは、実際にこのまま示してアンケートを聞いているのか。それとも、我々への説明で要約しているのか。

事務局 言葉そのまま聞いている。この言葉それぞれの満足度をカウントしている。「日頃、利用する公園の使い心地はどうか。」などである。

委員 景観をとってそのほか3つで構成するというのでいいか。それを基本にして新しい指標を加えてR4年度からできないか。気になるのは、景観とプレース、そこに居たいと思う場所があるかということで意味が違う。指標として比べられないからと消すと景観の指標がなくなってしまう。新しく付け加えるなら、R5年度からなので、元々が何%であったか、増えていたのかというのがわからない。

委員 文章そのままにしたとしても、これから緑を建築物の周りに増やす等、街路樹がきれいになって数値があがるのであれば、残してもいいのではないかと思う。

事務局 例えば、計画策定時に、少し現況の数字がわかりにくいので、計画初年度はここ

を空白にし、次年度に数値をとり、新たにここで緑の項目を議論する。例えば、複数聞いてそれを初年度設定して、10年をおいかけるといふのもありなのかなと思う。現行の数字がないものは、今回無理やり親和性のある項目で当初設定をしたのだが、例えば、新たに設定をして、次年度以降にそれを公表するというやり方でもいいのではないか。これが実は全体目標になっているので、この数値が10年間どう動いたかはきっちりとした市民に意見を聞いて项目的にもしたほうがいいのかと思った。今ある既定の項目で、これが親和性が高いだろうというところを選んだやり方がいいのか、新たな項目を聞きなおして、10年間追いかけていくほうがいいのか、悩んでいるところである。

委員 AからIの項目で4つが反映されるかという防災がない。

事務局 言われる通りで、全体目標の中で聞き漏れている。それを全体目標の数値としておさえるのも悩みどころである。アンケートは毎年取っているので、項目を追加、削除することは可能である。

委員 設定の仕方とすれば、今の44%とわかっていたら、52、60と数値設定できるが、10%アップとか設定の仕方もできる。それは今までのデータ傾向を見て、これぐらいの成長の度合いだと、少なくとも全体目標はそれで行けるだろう。AからIの間も何か適切なモニタリング指標で構成できるのであれば、これぐらいアップという設定もありだと思う。

ここで議論したいのが、景観がもしも適切であったらこの4つの指標で十分なのか。いや、それだけではなく、公園緑地、緑の基本計画も全体の事を調べるにあたっては、何を見ればいいのか。一番大きな対象としては公園と街路樹が、公共が管理する施設緑地としてある。その他多くの緑地の分類があるわけだが、それをどうまとめていくかということにもなる。対象としては公園と水、見方としては景観と居場所、この4つの指標が今はあるのだが、これをもっと新しく変えろとすればどうか。

予算とか計画の中では、公園や街路樹が非常に大きなものがあるわけなので、街路樹は別に聞いてもいいような気がする。直接行政が関与できる施設緑地として、水辺、あと農地もある。民有地の緑等もあり、尼崎は工業地域なので尼崎らしく民間の緑の力もお借りして、緑量アップを進めている。そう考えると特色が出てくるような指標も後々設定できそうな感じである。特に全体目標に関わる場所はもう少し増えてもいいような気がする。また、再考頂くといいことではないだろうか。

委員 この緑に対する能動的な動きに関するものが、なにかいれられないか。みどりで人つながりに上がっているところで。ただ満足度という言葉と相性が悪く、自分の近くの緑に関して情報がとれる状態にあるかどうか、そこまで意識している人がいるか。

- 委員 基本理念の中に「識り」があったりするので、全体目標の中にそういう項目があってもおかしくない。
- 事務局 沢山、情報発信はしている。緑化公園協会では、ホームページやSNS、インスタグラムもしていて、結構フォロワーも居るので、緑の情報を取り入れられるのだが、知られていないだけかもしれない。
- 事務局 目標値 E のところは、緑に関する協働型事業、イベントの数とかなり幅広いので、どこからどこまでを取って目標値にするか悩んでいる。市が主導でしていないイベント等もあるので、それもカウントしたいのだが、どうしたらよいか。
- 委員 それは設定するしかしかたがない。全員が全ての活動に協力することが無理でも、できそうなところをしていますと分ればいい。
- 資料3を見て、その目標とするならばこの説明でいいのか。ここが大事な所で、例えば、資料3の1ページ目でいうと「識り（しり）」の所が新しくなって、さらに新しい概念としては、一般的な「知る」ではなく「識る」を使用している。知っているの「知る」は表面的に知識を得るというようなことだけで、シキの方の「識る」はそれを自分で受け止めて考えてみる、少し行動に移してみようというところまで、深く考えるという意味で使っている。情報を得るところから、行動がまちの価値を上げていくとつなぐ。広く説明しているが、一般的な「知る」ではなくこちらの「識る」である。理由はきちんと書いたらなるほどと感ぜられるので、いいのではないかと思う。
- 委員 やはり、基本理念で説明がいるというのはどうなのか。親しむとか、楽しむのほうがいい。ステップ段階のステップ1の所対応するのではないか。まずは、親しんでいただくニュアンスなのではないか。親しみとか、楽しみとかもう少し、一言でわかるようなものがある。初期段階の中、まずは気づくとか、自分の生活に取り組むとか、そのような感じではないか。
- 委員 楽しみであったら、では、楽しんでない人はどうするのが肝なので。だからこそ言葉にしたいというのがある。
- 委員 楽しんでない人は、知りはしない。
- 委員 緑ではないところから情報を得るなどそういう議論をしてきた。
- 子育ての人が、緑が好きではない、知らないけれども、緑の事でたまたま活動するなど、色々なアプローチをしていくべきというもので、緑がいいですねという計画ではない。緑に興味がないことを前提にした時、まず、どのアプローチかということだと思う。
- 委員 識るのほうが高度な気がする。
- 委員 楽しみであれば今よりも色んな所で使われていて、何かを変えて、ぼんと思わせないとキャッチされないというようなこともあって、やさしい言葉を使うか、造語をもう少し入れてみるのかのバランスがいつも迷いどころである。

- 委員 識るという言葉は、ステップ1ということではないかということだが、識るというのは全てのステップに関わることなのか。
- 委員 全てのステップ間に、色んな段階で長けてくるという意味である。
- 委員 十分重要な用語であれば、ここだけではなくもっと全体の中で、識るという言葉浸透させてもらいたい。このステップアップの図にも、識るという言葉をつかえる。
- 委員 人つなぎ、未来つなぎのところでは、たくさん出てきてもいいように思う。
- 事務局 ステップの図の中にも、ステップ2の辺りで、深く知ってもらうという。行動に移す時に「識る」というのが入るのかというので検討する。
- 委員 右の自由に移動ということ、左側はステップアップとなっている。やはりそれは、ステップというより、ステージであって、色んな人が、自分のライフステージに合わせて、関わり方とか関わる場所を自由に選ぶというだけの話であって、平たく色んな所につながっている。一直線に上に上がる図にはならない。それぞれのステージを相手ごとに識ることも意味は全く違う。これを識るとか、これを識ったら行動にもなる等、こういうことができるのか、これとこれを人から教えてもらえる等と言うのがわかりやすい。
- 委員 ステップアップを支援するのが行政の仕事である。だから、ステップ3が公園のリニューアルという段階かと思うが、公園のリニューアルになっても常にステップ1や2の施策をやり続ける。ステップアップを支援することが行政の大切な役割である。各ステップを横割りに支援するのではなく、常にステップアップを意識した支援をする必要がある。
- 委員 このみどりの基本計画は行政が策定するが、皆でやりましょうという計画である。
- 委員 みんなでやりましょうという中で、行政の役割を明確に持つことが重要である。
- 委員 中身を変えるのであれば、24ページ、説明文の2つ目は、「みんなで目標を共有し、取り組みを持続していくことが必要です。」と書いている。
- 委員 関心がない人でも周りに関わりがあって、それを支援していく。色んなことを指導できる人がいたら、その方を育成していく。色んな取り組みを持続していくことが大事ということを主旨の中に記載していくべきである。
- 事務局 0のステージから、1に上げるという所は、行政として尽力したいところだが。ここから、ステップかステージか2、3についてはそれぞれに対し、支援策を打つが、必ず上向きの矢印はいらぬのではないか。
- 委員 そうである。絞り込んでしていくのが、個別策として、事業として、育成事業は絶対した方がいいだろう。緑の基本計画の施策、何々と何々を書く段階までは、網羅的に書いておいた方が、マスタープラン的にはいいだろう。
- 事務局 0から1は矢印があるが、そこから斜め上に上がっていく矢印はいらぬとい

うことか。

- 委員 16 ページの公園マネジメントだが、中の取り組み内容になると、管理運営と書いてある。おそらく、マネジメントと同じ意味で管理運営という言葉を使っている。表現を統一したほうがいい。
- 委員 誰でも分かりやすいのは管理運営の方か。
- 委員 管理という言葉はふさわしくない。これからやろうとしていることは管理ではない。マネジメントではないか。
- 委員 管理という言葉は極力使いたくない。管理運営という言葉は管理の方が前に出てくるので、どうしても行政がするものというイメージがついてしまうことがいやである。これを含めて、識るを管理の所に出して漢字の表記は統一を。
- 委員 資料1のHは、行動している市民の割合で、事前説明の時に、10年後70%であったがこの資料では71%ときりがわるいが、何か検討された結果か。
- 事務局 直近5ヵ年の実績を見ると、1番高いのが平成30年の66%であったので、最初の10年間の前半の5年で66%にまず戻す。そして大体同じ上昇幅、この傾きをもって10年後を迎えたということで71%とした。
- 委員 元々の理由が推計のその傾向でというのであれば、参考値なのであまり1%レベルで言ってもどうか。例えば、66%は超えるということで、65%、70%で10年後には一定の超えた数値を目指すということでもいいのではないか。
- 委員 資料3の右下の16と書いてある、公園のマネジメントの所で、大規模な公園はP12参照とあるのだが、冊子P12を見るが、どれが大規模な公園なのかわからない。
- 事務局 資料4の全体の素案のP13に大規模と身近な公園表で出てくる。P13である。総合、地区を大規模な公園という定義にしている。近隣、街区を身近な公園としている。主に総合、地区を代表にという意味合いである。P12, 13参照とする。
- 委員 実際にやる動きがあるのか。
- 事務局 駅から近い、公園面積が広いなど、ポテンシャルを持っているような公園はある。この10年間の中で、パークPFI制度などどういう可能性があるのかは検討できればと思っている。具体的に公園の名前とかを出せる状況ではない。
- 委員 施策目標Iの「みどりに関する環境学習の参加者数」ということだが、事前説明の時に「尼崎環境教育プログラムの実施数」とあったが内容変更されたのか。
- 事務局 環境プログラムについてはみどりに関する環境学習がメニュー少なく、みどりに特化した環境学習は緑化公園協会や21世紀の森などで結構やっているのでもちらの数に変更した。元の指標に戻した。
- 委員 数は少なくとも貴重だと思うが、環境部局のプログラムはほぼない感じなのか。把握してもどうしようというくらいのレベルなのか、これから増やしていくのか。先日生物多様性の分科会があったが、環境部局では事業もなく予算もないの

で決めるけどできないことが多い。こちらで位置づけて事業化できればとてもありがたいと言っていた。こちらの位置づけをすることで存続していく、お互い支えあうことが必要なのではないか。

事務局 今同時並行で計画を改正中で、そこで共通の指標など調整中で整合を図っていきたいと思っている。

#### ○みどりのネットワーク図について

委員 都市マスでは地域指定をして国から補助をもらうことができる。緑化重点地区が国交省の補助をもらうには指定していかないといけない。民有地で緑化がこれから進むだろうという地区を指定しておきたい。都市緑地法で保全地域については生物多様性のほうからどうですかときたら、猪名川自然林や佐璞丘や寺社仏閣の社寺林などが重要なので、指定していただくとありがたいという話は聞いている。

こういった点を踏まえてみどりのネットワーク図がこれでいいか意見をいただきたい。

ちなみに大阪市では却下されたが、テクニックとしては市域全域を指定するという方法もある。民有地を含めるとどこが緑化するかわからない。行政だけだと計画のある所を指定できるが、わからないので全域。そして行政としてわかっているところは「特に」ということで緑化重点地区かなにかで規定してさらに強調するという方法もある。

委員 市民緑地認定制度を使うとなると緑化重点地区でないとだめで、それが緑の基本計画でかかっていると何年待たないといけないかわからなくなる。全部かけたほうがやりやすい。

委員 緑化重点地区にかけることで、民有地を公園のようにやると税制優遇などの緩和がある。

委員 その時にはすでに指定されていないと適応されない。

委員 工場の大規模な建物や 150 年前くらいのレンガ倉庫を民間が出してやる緑化などは何となく想定はできるが、小さい事例は本当にわからない。

事務局 尼崎市の場合、大規模なところはわからないので、やるとすれば全域になる。

委員 重要な民間の開発する際、一部認定を受けて公的に公開しながら民間開発を行うこともできなくはない。

事務局 民間の動きがあるときにこれが足かせになるのはまずい。ここと指定しにくいので市域全体をかけたほうがいい。

委員 東京都墨田区のコミュニティガーデンの事例で、地区指定していなくて固定資産税がかかり大変そうだった。指定していると減免になる。ちょうど墨田区も緑の基本計画の改定直前で提案して地区指定した。

- 事務局 小さな空き地でも適応できるのか。面積要件はないのか。
- 委員 できるし国交省もそのような事例を望んでいると思う。面積要件は300㎡以上。尼崎市で開発需要があって空き地を緑にする需要がないのであればそこまで気にしなくてもいいが。
- 委員 尼崎市には密集市街地が昔からあるのでわからない。
- 委員 そういうところで積極的にモデルを作って有名な事例を作るモチベーションがあればかけてもいい。
- 委員 10年間ではなくても中期にわたってということも含めて検討していただければと思う。
- もう一つの保全地域の方については、生物多様性部会の委員からは猪名川自然林、佐璞丘、農業公園については生物多様性については非常に重要な場所であると聞いている。できれば点みたいなスポットも指定して欲しいがそれは無理じゃないか。地点の指定をしたら消えてしまったら終わり。地区指定したらどこにいても大事ということがアピールできる。種が大事というところは市の教育委員会の天然記念物のようなもののほうが望ましいのではという話をしていた。社寺林としては稲野神社のようなまとまった歴史性や文化も含めた価値、大きくなくても意味のある自然をきちんと指定していくことが有効である。
- 特別保全配慮地区は都市マスとの関係でにぎわいについて、例えば新駅周辺については協議で緑化がどうなるかわからないが、それこそ緑化を誘導していかないといけない。小さなにぎわい拠点みたいなところも指定していくべき。小さな町の核をおぎなうって、健康増進や生活の質を高めていくようなところの拠点やネットワークでつながっているなど、色々なことが大事である。
- 猪名川藻川武庫川などの河川が生物多様性上はソウルハブというか、つなげるコリドーでもあるけれども核でもあるとはっきりわかっているの、そこはきちんと位置付けて、生物多様性の核となっている豊かな自然のところを、歩いて健康増進にもなるし小さなにぎやかな拠点にもなる構造がわかればいいと思う。そのためには、つなげ方もわかるようすべき。今は一色でネットワークとなって何のネットワークかわからないが、意味が整理できれば書く。今まで緑はあったほうがいいよねという量的なネットワーク図を作成していたが、質の話になるとどんな拠点かどんなネットワークかというのが大事になる。
- 事務局 拠点のマークを載せるとき、大きい公園だと色々な機能を持っているので6つ7つあったりする。健康増進の色もたとえば武庫川河川敷をずっと塗ろうと思ったがそれだけではない。複数の機能を持ったところばかりになりそれをどう色分けするか悩みどころである。
- 委員 テーマで分けられたらいいが。上坂部西公園は全部入るので、「総合」とかでいいのでは。そこまで区別してやっていきたいわけではないので。

- 事務局 ただ、もっと使ってもらいたいということを今回の計画では出しているの、使う側の目線のネットワーク図はあってもいいと思う。
- 委員 農地が多いということは示すだけでいいのか。なんの機能を持っているのか。
- 委員 北部の方は生産農地、西武庫公園や浜田公園付近の農地も生産緑地。ただ、みどりの基本計画でやりたいのはそれだけではなく多面的なこと、例えば、生物多様性や小さいところは市民農園にして環境学習とか、0から1, 2になる何かとか、子育てのためとか色々なことがある気がする。
- 尼崎市には市や民間がやっている市民農園はあまり多くはなかったか。
- 事務局 農政課がやっており、緑化公園協会が委託を受けて管理している。
- 事務局 直接農家の人ができないので、市が窓口になって抽選などをし、公募している形になっている。農政課が窓口になって間を取り持ってやっている。
- 事務局 使用者と農家との間に協会が入って、お金のやり取りは直接農家と借りている人でやり取りして、整備などは協会ですしている。
- 委員 市民農園は大規模なものはないのか。ネットワーク図に載せるか微妙ならラインである。
- 事務局 それぞれが持っている土地を活用する形なので小さい。大規模ではない。
- 委員 街区公園にも言えることで、全部を図に載せることはできないがすべて大事なもので、身近な公園緑地があるということは図にプロットはしないが明記はしたほうがいい。理解はしていただきたい。
- 委員 市民農園でなくても生産機能でもいいと思うが多過ぎてだけだと、それで、つてなるので。
- 事務局 見せ方とそれぞれどういった機能があるのかということをもうちょっと整理しなおす。
- 委員 今回はネットワーク図は1つなのか。資料編で何かつくのか。市民農園の図や、公園緑地で半径250m以内の円の中にあるかないかの図や、地図は何枚でもかなさっていったりするが、ネットワークとして本編に1つ載せるということではないか。
- 事務局 本編ではこのネットワーク図市全体で考えている。もう一つ下の情報が書ききれない。例えば尼崎市が6つの地区に分かれている。6つの地区別で同じくらい大きさのものであれば、市民が知りたい情報や自分の身近な情報を載せられる。ただ、そこにどこまで表現するか、どういう意図をそこに持たせるかが難しい。
- 委員 温暖化が量的に見えて、公園があります、ここすくないです、もっと作りましょう。やるが増えていくだけだが、それを全部重ねて理解できれば、ここは公園は少ないが農地が多いから、こういう体験で補うことができるのか。機能の再

配置の中にすべての公園緑地を含める等、公園でてくてく歩けなくても猪名川があるのでウェルネスは担保できますとか、価値がきちんとあればいい。ここは公園緑地を中心に価値を高めていくということがわかればいい。そう表現ができればと注視すればよい。

委員 結構情報が多いのであまり増やすのもどうかと思うが、ネットワークなら防災減災という視点もある。みどりを使って防災減災考えるときにネットワークが市内でどうなっているか仕組みもあるかと思う。

事務局 防災拠点もあるので載せることも可能。ここに書いてある公園が防災拠点を持っている。それとみどりのネットワークの繋がりが別の意味合いに感じてしまって、防災も同じ表現の拠点というが緑のネットワークとつながっていないのではと勝手に解釈してしまって入れていないが、そこは関係が深いとなるのか。

委員 尼崎全体を見たときに防災の観点がこれくらいで、絶対的に面的な情報がわかる。今でも市民活動など5つの視点が入っているので、網羅するならそういう視点もある。

事務局 資料1の目標Gで「防災減災に役立つみどりの整備」と目標にしているので、市内全域に防災の拠点であるみどりがありますよという表現はできる。分類が増えるとマークが増えるのでもう少し載せられるかどうか検討する。

委員 今までは6枚ネットワーク図を作っていた。防災のネットワーク図は本当にネットワーク図のまま機能する。広域避難所の公園と学校がつながっているかどうか本当にネットワークになる。生物多様性のネットワークは書いているが本当にネットワークしているかわからない。防災のネットワーク図は本当に大事でそこでつながっていなかったら本当につながらない。それだけしっかり書くという考え方も意味はある。行政の方がこれが施策や予算の武器になることも意識して意見している。

委員 「緑の配置方針」は疑問である。配置ならこれからなりますというイメージだが、あるものなので配置ではないと思う。

委員 「緑」は漢字なのか。ハードの配置と読まれている。「みどり」は機能の配置のはずである。それがハードが強く出てくる場合もあるしソフトの場合もある。

委員 カッコ内の「みどりのネットワークの保全・創出と利活用」だけでいい。

事務局 ボランティア活動とか人の活動もネットワークとしてつながる。

委員 ボランティア拠点などである。生物多様性を支援する拠点はどこですかとなると中央緑地になるが、県の施設だが市から派遣したらどうかとか、緑の相談所が核ではないかという話もある。凡例を重ねたらすごく重要な、いくつかの機能を重ねているところが緑の拠点としておかれている。大まかな図ができあがるというのがこれまでの考えである。

学校向けの普及冊子で魚釣り公園を紹介していた。生物多様性も生物とのふれ

あいがそもそもないから、虫採りしようといっても虫好きじゃないと採りに行かないだろうということで、色々なレジャーやアウトドアがある中で生物とはこんなものだよとアピールするために魚釣り公園を紹介していた。こちらでも、「識る」を魚自体が好きではなくても楽しいからとかそういう公園もそういう観点で入れてもいい。もっと砕けたレクリエーション施設は少ないか。元浜緑地はレクリエーションの機能があるのか。

事務局 じゃぶじゃぶ池があったりロングスライダーがあったりする。  
委員 ベイエリアの会議では阪神間ではウェルネスやレクリエーションやマリンスポーツなど中核にして芦屋から尼崎に至るゾーンを作る話になっていて、南の方の水路はサップとか環境を使ったものがある。みどりの基本計画には水面も入るのでそういうものを入れてもいいかもしれない。

#### ○全体を通じて

委員 都市計画審議会の中に色々な分野の分科会があるのは、各部局が連携したプロジェクトを積極的に実施することが目的かと思う。他部局と連携を意識して行動計画は書くべきである。

委員 まちづくり系は各地域課、街路樹が道路維持担当、まちなみの緑化推進などが開発指導課。

委員 都計審に関係のない部局との連携もあるだろう。様々な分科会で都計審を構成するのは、何らかの連携シナリオがあつてのことだとおもう。そういうことが反映した行動計画にするべきである。

委員 むしろ足りないところとかがあつたら記入すべき。

事務局 施策1-3のまち並みの緑化推進のところは、住宅政策分科会や都市美分科会や住環境分科会が関係する。今開発指導課しか書いていないが住宅部局とも連携を図っていく。

委員 他部局との有機的な連携や住民の声から計画をつくるということは、市職員の仕事のやり方を変えるということでもあると思う。専門家が集まっているというだけではなくて。

委員 抜けているところは施策2-2の情報発信のところ。子育てとかいろいろな機会に公園を使ってほしい。今までやってきたことは学校でも公民館でもできるが公園でやってほしい。ただ、書き方が難しいが強調してもいいような気がする。3-1の保護樹木の箇所のところがない。緑化保全地区とかエリア指定とかOECMで県から中央緑地が登録されるというので申請を出した。30×30のこともあるのでそういう記載にしたほうがいい。関係課には環境部局を書いたような気がする。希少種重要種の保全取組も環境部局とやったほうがいい。

委員 連携する内容をすべて書き込むのは難しい。今回のマスタープランで重要な公

- 園のリニューアルは、都市計画の部署と連携すべき重要なプロジェクトである。
- 委員 重点プロジェクトに当たるようなものを決めておいたらいいい。今、施策 1-1 と 1-2 が「新」となっている。ただ重点プロジェクトについては示していない。今のところは示す予定はないのか。
- 事務局 施策 1-1、1-2 を「新」として置いて重点と同じ意味合いである。
- 委員 行動計画のレベルで出てくることだと思うが。
- 委員 今のところ施策 1-1、1-2 の中で行動計画の中でおそらく重点的なものが出てくる可能性が高いであろうというくらいなのか。
- 委員 施策 1-1 は公園からまちづくり。みどりの計画だけでまちづくりとはいかないのではないか。みどりからまちづくりするならもっと連携が必要なのかなあと。
- 事務局 今回のみどりの基本計画の肝は「魅力的な公園づくり」である。サブタイトル「公園からまちづくり」は元々単体で動いていたものを、都市計画も影響するし住宅政策もファミリー世帯が魅力的な公園があるから住んでみようなど影響する。少なくとも、都市計画分科会と住宅政策分科会とは連携するということ、同じ都市計画審議会の中でもあるのももう少し意識する。
- 今ある規定の事業ややりたい事業を書いているので、重点的な取り組みがどこどこがつながっていて、市民にはそのわくわく感、公園がよくなると住みやすいまちづくりができるということをわかるような見せ方をしたほうがいいのではないかということか。
- 委員 国交省的には、大きな時代の流れとして、1-1①の社会潮流や市民ニーズのあった機能分担、機能の再配置をするということと、仕組みづくりローカルルールというのがトレンドとして強く示されたり、P-PFI や DX、これくらいが国交省的に大きな時代の流れでやってほしいと思っていること。それ以外も尼崎らしくまちづくりをしようとしている重要なものの 2 種類くらいに分かれる気がする。これをバランスよく 1、2 つずつ重点事業として取り扱うか、大きな時代潮流で新しいほうを重点事業にするのか、という考え方はあると思う。